

# InterSec/MW400l オプションライセンス セットアップ手順説明書

## 商標について

Microsoft、Windows および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

# ごあいさつ

このたびは、InterSec/MW400I(以後、InterSec/MW と記載)のオプションライセンスをご利用いただき、まことにありがとうございます。

本書は、ご利用いただくライセンスの内容の確認やセットアップの内容を中心に構成されています。ご購入いただいた本製品をお使いになる前に、必ずお読みください。

# 目次

1 章 機能追加ライセンスについて .....	1
2 章 InterSec/MW の機能追加オプション .....	2
2.1. 機能追加ライセンスのインストール方法 .....	3
2.2. 追加機能の確認方法 .....	7
2.2.1. 二重化構成構築キット機能の確認 .....	8
2.2.2. DNS/DHCP 強化ライセンス機能の確認 .....	9
2.2.3. 全メール保存ライセンス機能の確認 .....	10
2.3. 機能追加ライセンスのアンインストール方法 .....	11
3 章 InterSec/MW の WEBMAIL-X オプション .....	12
3.1. WEBMAIL-X の同時接続ライセンスについて .....	13
3.2. WEBMAIL-X のライセンス申請シートの送付 .....	13
3.3. WEBMAIL-X の同時接続ライセンスの登録 .....	14
4 章 注意事項 .....	19

# 1章 機能追加ライセンスについて

各オプション製品をご使用になるためには、まず、お手持ちの InterSec/MW に、各製品に添付されているライセンスをインストールしていただく必要があります。

InterSec/MW のオプション製品は以下のラインナップにて構成されています。

## 1) InterSec/MW の機能追加オプション

以下の機能のライセンスを InterSec/MW に追加し利用することができます。

- InterSec/MW 二重化構成構築キット

InterSec/MW の冗長化（フェイルオーバークラスタ）構成が構築可能になります。

- InterSec/MW 全メール保存ライセンス

InterSec/MW を経由するメールの保存機能が利用可能になります。

- InterSec/MW DNS/DHCP 強化オプション

InterSec/MW の DNS サーバでのビュー、DNSSEC の利用が可能になります。また、DHCP サーバが利用可能になります。

## 2) InterSec/MW の WEBMAIL-X オプション

WEBMAIL-X はプリインストールされています。以下の同時接続ライセンスが準備されています。

- WEBMAIL-X 20 同時接続ライセンス
- WEBMAIL-X 50 同時接続ライセンス
- WEBMAIL-X 100 同時接続ライセンス
- WEBMAIL-X 20 同時接続アカデミック
- WEBMAIL-X 50 同時接続アカデミック
- WEBMAIL-X 100 同時接続アカデミック

※ 出荷時に評価用としてWEBMAIL-Xの同時利用5ユーザライセンスが付属しています。

本製品のインストールには、以下の環境が必要になります。

- InterSec/MW
- InterSec/MW にブラウザ経由でアクセスできるクライアント PC

※InterSec/MW へは、Management Console を使用してアクセスします。

※ご使用になるブラウザは、Microsoft® Internet Explorer 11 以上を推奨します。

## 2章 InterSec/MW の機能追加オプション

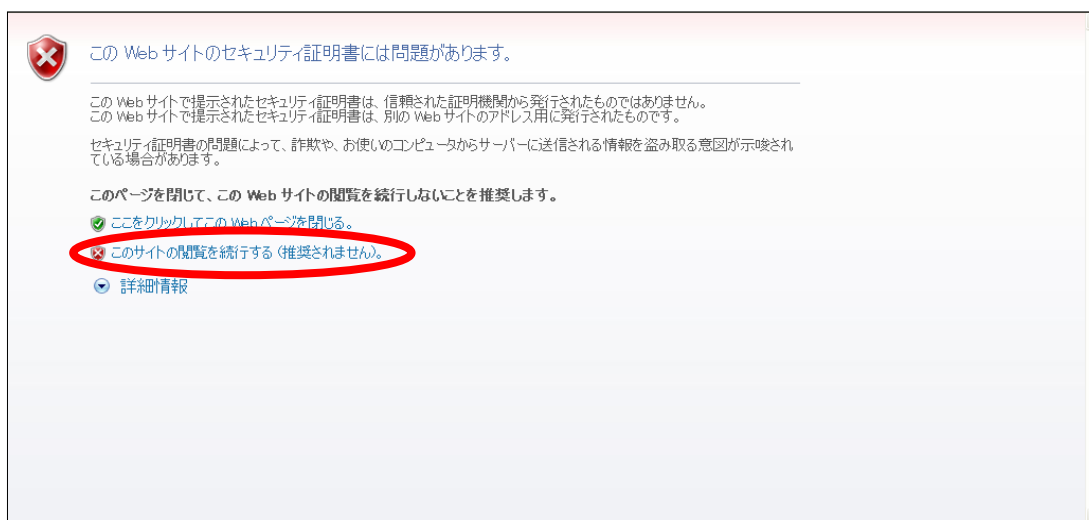
この章ではInterSec/MWにオプション機能を追加する以下の三つのライセンス製品についてインストール方法や機能確認方法について記述します。

- InterSec/MW 二重化構成構築キット
- InterSec/MW 全メール保存ライセンス
- InterSec/MW DNS/DHCP 強化ライセンス

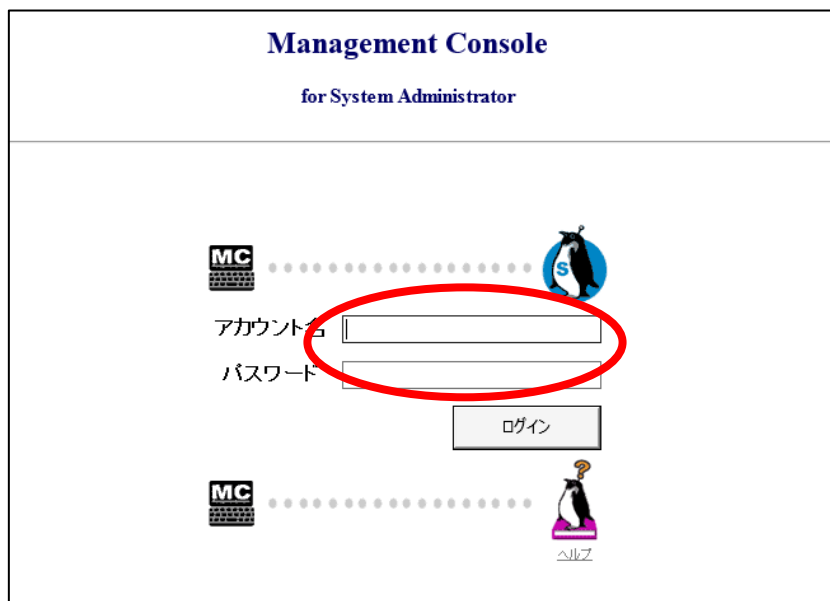
## 2.1. 機能追加ライセンスのインストール方法

- 1) InterSec/MW ライセンス製品を、InterSec/MW にインストールします。  
ブラウザから Management Console を使って InterSec/MW へアクセスします。  
セキュリティレベルの選択によっては、アクセスすると以下の画面が表示されますので、Internet Explorer 11.0 以上を利用されている場合は、「このサイトの閲覧を続行する」をクリックしてください。

Internet Explorer 11.0 以上の場合



- 2) Management Console のトップページが表示されます。  
正しい[アカウント名]、[パスワード]に入力してログインしてください。



- 3) ログイン完了後、Management Console の各種設定を行うためのページが表示されます。  
[システム]をクリックしてください。



- 4) 「システム」画面が表示されます。システム設定欄中の[ライセンス管理]をクリックしてください。



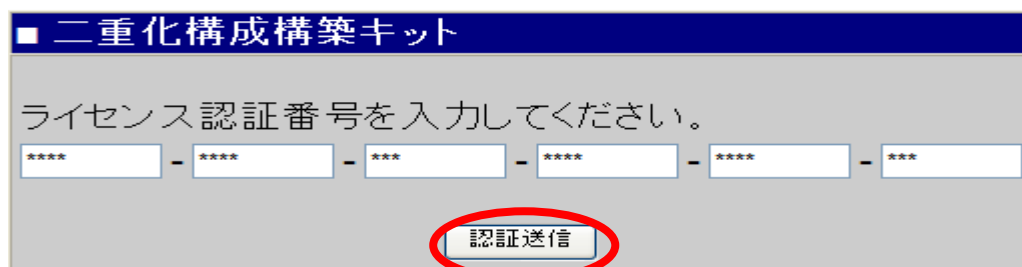
- 5) 「ライセンス管理」画面が表示されます。

インストールする InterSec/MW のオプションライセンス製品名に対応した[インストール]ボタンをクリックしてください。

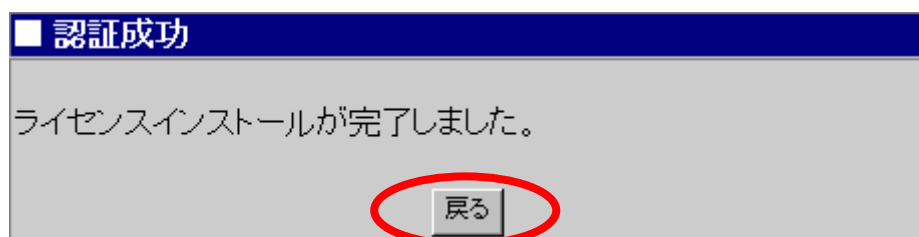
■ ライセンス管理			
ライセンス製品名	状態	操作	
全メール保存ライセンス	インストールされていません	インストール	アンインストール
DNS/DHCP強化オプション	インストールされていません	インストール	アンインストール
二重化構成構築キット	インストールされていません	インストール	アンインストール



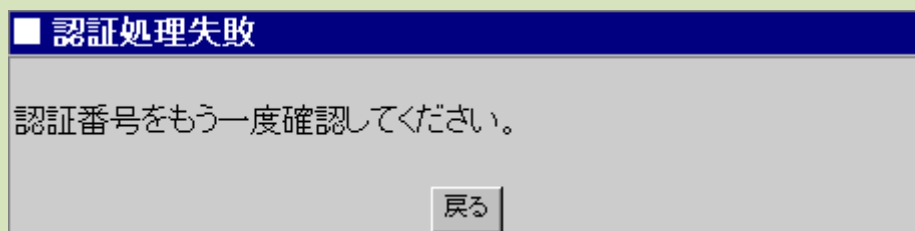
- 6) インストールするオプションライセンスの認証画面が表示されます。  
ご購入のライセンス製品に添付された「ライセンスシート」に記載されている  
ライセンス認証番号を入力し、入力内容を確認した後、[認証送信]をクリックしてください。以下  
は、「InterSec/MW 二重化構成構築キット」の例となります。



- 7) オプションライセンスが正常に認証されると、以下の画面が表示されます。



インストールに失敗した場合は、以下のエラーメッセージが表示されます。[戻る]ボタンをクリックして、ライセンス製品名とライセンス認証番号を再度確認して、手順(5)からやり直してください。



8) 以上でインストールは完了です。

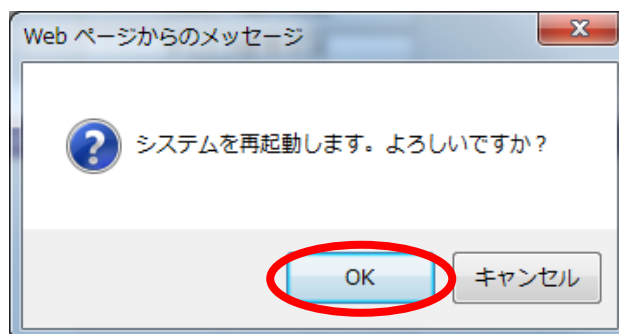
システム画面を表示し、[システムの再起動]をクリックして InterSec/MW の再起動を行ってください。



二重化構成構築キットで二重化システムを構築している場合は、ClusterWebUI 画面、または CLUSTERPRO Webmanager 画面からシステム再起動を実施してください。

9) システム再起動の確認画面が表示されます。

[OK]をクリックしてください。再起動が実行されます。



10) システム再起動後、オプションライセンスの機能に関連して表示が追加されます。

「2.2. 追加機能の確認方法」に従い、ライセンスの登録状況を確認してください。

## 2.2. 追加機能の確認方法

追加機能の確認方法について説明します。

- 1) インストール方法と同様の手順で、Management Console から[システム]を開き、[ライセンス管理]をクリックしてください。



- 2) ライセンスがインストールされている場合、そのライセンスの状態が「インストール済み」と表示されます。

以下は、「InterSec/MW 二重化構成構築キット」を示した例です。

■ ライセンス管理			
ライセンス製品名	状態	操作	
全メール保存ライセンス	インストールされていません	インストール	アンインストール
DNS/DHCP強化オプション	インストールされていません	インストール	アンインストール
二重化構成構築キット	インストール済み	インストール	アンインストール

### 2.2.1. 二重化構成構築キット機能の確認

- 1) Management Console から[サービス]を開きます。
- 2) [サービス]一覧から「クラスタプロ(CLUSTERPRO X)」サービスが利用可能になります。

■ サービス				
OS 起動時 の状態	現在の 状態	(再)起動	停止	サービス
停止 ▼	停止中	起動	停止	<a href="#">Mission Critical Mail Filter(MCMail)</a>
停止 ▼	停止中	起動	停止	<a href="#">メールサーバ(postfix)</a> <a href="#">メールサーバ(dovecot)</a>
停止 ▼	停止中	起動	停止	<a href="#">メールコントローラ(mwmctl)</a>
停止 ▼	停止中	起動	停止	<a href="#">WEBMAIL-Xサーバ(webmail-httpd)</a>
停止 ▼	停止中	起動	停止	<a href="#">ディレクトリサーバ(openldap)</a>
停止 ▼	停止中	起動	停止	<a href="#">Webサーバ(httpd)</a>
停止 ▼	停止中	起動	停止	<a href="#">ネームサーバ(named)</a>
停止 ▼	停止中	起動	停止	<a href="#">ファイル転送(vsftpd)</a>
停止 ▼	停止中	起動	停止	<a href="#">時刻調整(ntpd)</a>
起動 ▼	起動中	再起動	停止	<a href="#">リモートシェル(sshd)</a>
起動 ▼	停止中	起動	停止	<a href="#">クラスタプロ(CLUSTERPRO X)</a>
起動 ▼	起動中	再起動	停止	<a href="#">ネットワーク管理エージェント(snmpd)</a>
停止 ▼	停止中	起動	停止	<a href="#">システム監視(mwmonitor)</a>
停止	停止中	起動	停止	<a href="#">サービス監視(chksvc)</a>
設定				

- 3) 二重化構成の構築については、InterSec/MW に添付されているクラスタ構築手順書を参照してください。

### 2.2.2. DNS/DHCP 強化ライセンス機能の確認

- 1) Management Console から[サービス]を開きます。
- 2) [サービス]一覧から「DHCP サーバ(dhcpd)」サービスが利用可能になります。

停止 ▼	停止中	起動	停止	ネームサーバ(named)
停止 ▼	停止中	起動	停止	DHCPサーバ(dhcpd)

- 3) [サービス]一覧「DNS サーバ」から「ビュー」が利用可能になります。

ビュー			
操作	ビュー名	操作	所属するゾーン
追加 順序			
削除 詳細	<a href="#">default</a>	追加	
		削除 詳細 移動	:
		削除 詳細 移動	<a href="#">localhost</a>
		削除 詳細 移動	<a href="#">0.0.127.in-addr.arpa</a>

- 4) [サービス]一覧「DNS サーバ > オプション」から ACL、DNNSEC が利用可能になります。

ACLの設定		
ACL名	アドレスマッチリスト	操作
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

TOP
-----

DNSSECの有効化設定

DNSSECを使用する(dnssec-enable)  
☐有効 ☒無効

DNSSEC検証を有効にする(dnssec-validation)  
☐有効 ☒無効

設定

[TOP](#)

■ DNSSECキャッシュサーバ各種キー設定

- 5) 各機能の利用については、InterSec/MW に添付されているユーザズガイドを参照してください。

### 2.2.3. 全メール保存ライセンス機能の確認

- 1) Management Console から[サービス]を開きます。
- 2) [サービス]一覧「メールコントローラ(mwmctl)」から「全メール保存設定」が利用可能になります。  
※全メール保存ライセンスをインストールしていない状態では、[全メール保存設定]ボタンはグレーアウトしています。



全メール保存機能を使用するには、メールコントローラ (mwmctl) の「起動」が必要です。

停止 ▼	<input type="checkbox"/>	起動中	再起動	停止	メールサーバー(postfix)
停止 ▼	<input type="checkbox"/>	起動中	再起動	停止	メールサーバー(dovecot)
停止 ▼	<input type="checkbox"/>	起動中	再起動	停止	メールコントローラ(mwmctl)
停止 ▼	<input type="checkbox"/>	停止中	起動	停止	WEBMAIL-サーバー(webmail-httpd)

全メール保存機能の設定を行った場合は、一度「停止」した後に「起動」を行ってください。再起動では反映されませんのでご注意ください。

- 3) 全メール保存の利用については、InterSec/MW に添付されているユーザズガイドを参照してください。

## 2.3. 機能追加ライセンスのアンインストール方法

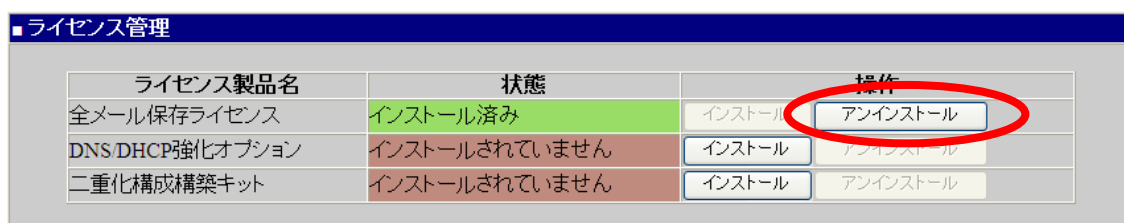
機能追加ライセンスのアンインストール方法について説明します。

- 1) Management Console から「システム」画面を開き、[ライセンス管理]をクリックしてください。



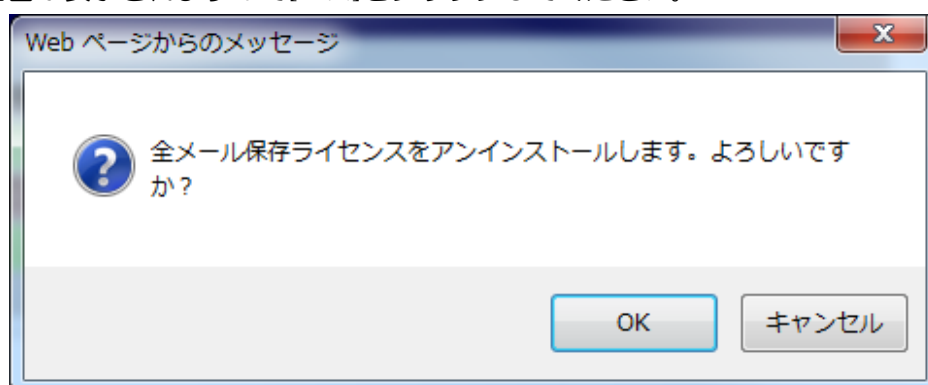
- 2) ライセンスがインストールされている場合、以下の画面が表示されます。

以下は、「InterSec/MW DNS/DHCP 強化ライセンス」を示した例となります。

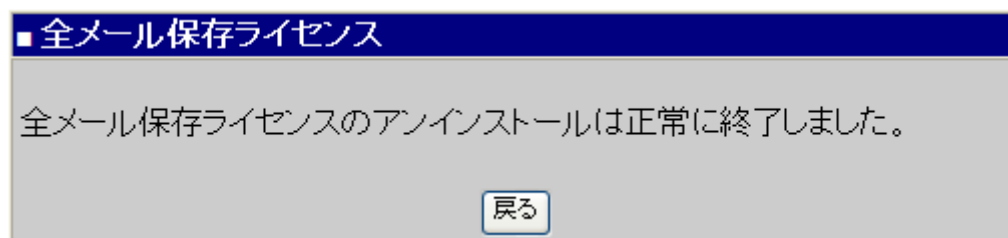


- 3) [アンインストール]をクリックします。

以下の画面が表示されますので[OK]をクリックしてください。



- 4) 正常終了すると以下の画面が表示されます。



以上で、アンインストールは完了です。「2.1. 機能追加ライセンスのインストール方法」の 8)以降と同様の手順でシステムの再起動を行ってください。再起動後、5)の画面で[アンインストール]が無効になっていることを確認してください。

### 3章 InterSec/MW の WEBMAIL-X オプション



#### 二重化構成構築キットをご利用の場合

WEBMAIL-X サーバの利用になるプロトコル選択は、二重化システム構築後に実施後してください。



WEBMAIL-X ではメールデータの保存場所に応じて、以下の2種類の接続形式（プロトコル）をサポートしています。

お客様のシステム環境にあった接続形式を選択してください。

- IMAP 接続形式（こちらの利用を推奨します）

メールデータをメールサーバ側に保存する形式です。

InterSec/MW 本体のメールサーバ機能と WEBMAIL-X 機能との通信はこちらで実現しています。InterSec/MW“以外”のメールサーバと WEBMAIL-X 機能が『IMAP 接続』で通信することも可能です。

- POP 接続形式

メールデータを WEBMAIL-X 側に保存する形式です。

InterSec/MW“以外”のメールサーバと WEBMAIL-X 機能が『POP 接続』で通信する場合は、こちらを選択してください。



### 3.1. WEBMAIL-X の同時接続ライセンスについて

WEBMAIL-X は、InterSec/MW にプリインストールされています。以下の同時ユーザライセンスを追加することで、利用することができます。

- WEBMAIL-X 20 同時接続ライセンス
- WEBMAIL-X 50 同時接続ライセンス
- WEBMAIL-X 100 同時接続ライセンス
- WEBMAIL-X 20 同時接続アカデミック
- WEBMAIL-X 50 同時接続アカデミック
- WEBMAIL-X 100 同時接続アカデミック

※ 出荷時に評価用として WEBMAIL-X の同時利用 5 ユーザライセンスが付属しています。

本オプション製品をご使用になるためには、ユーザライセンスを申請後、登録していただく必要があります。あらかじめ、製品の購入時に添付されているライセンス申請シートを登録申請していただき、「ライセンス発行証」を入手してください。

### 3.2. WEBMAIL-X のライセンス申請シートの送付

WEBMAIL-Xを使用する場合、事前にライセンス申請を行いただく必要があります。

ライセンス申請シートを記入し、ライセンス申請シート上部にある送付先宛まで送付してください。受付完了から14日後を目処に「ライセンス発行証」シートを宅配便で返送いたします。

### 3.3. WEBMAIL-X の同時接続ライセンスの登録

この章では本製品の登録までの準備について説明します。

- 1) InterSec/MW ライセンス製品を、InterSec/MW にインストールします。

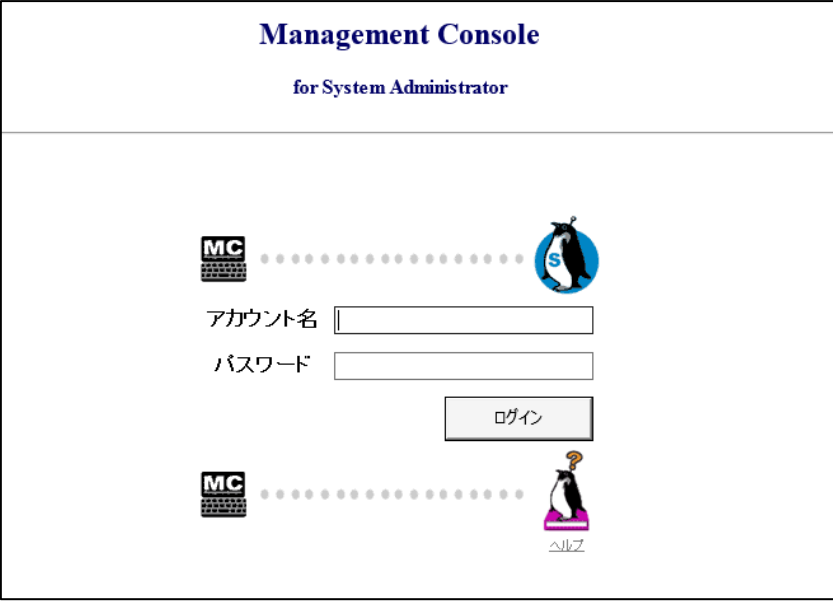
ブラウザから Management Console を使って InterSec/MW へアクセスします。

セキュリティレベルの選択によっては、アクセスすると以下の画面が表示されますので、Internet Explorer 11.0 以上を利用されている場合は、「このサイトの閲覧を続行する」をクリックしてください。

Internet Explorer 11.0 以上の場合



- 2) Management Console のトップページが表示されます。  
正しい[アカウント名]、[パスワード]に入力してログインしてください。



The image shows the login page of the Management Console. At the top, it says "Management Console for System Administrator". Below this, there are two rows of icons: "MC" (a keyboard icon) and a penguin icon. In the center, there are two input fields: "アカウント名" (Account Name) and "パスワード" (Password). Below these fields is a "ログイン" (Login) button. At the bottom, there are two more rows of icons: "MC" and a penguin icon with a question mark.

- 3) ログイン完了後、Management Console の各種設定を行うためのページが表示されます。[サービス]をクリックしてください。



- 4) サービス画面の「WEBMAIL-X サーバ (webmail-httpd)」をクリックしてください。

■ サービス				
OS 起動時 の状態	現在の 状態	(再)起動	停止	サービス
停止 ▼	停止中	起動	停止	Mission Critical Mail Filter(MCMail)
停止 ▼	停止中	起動	停止	メールサーバ(postfix) メールサーバ(dovecot)
停止 ▼	停止中	起動	停止	メールプロセッサ(smail)
停止 ▼	停止中	起動	停止	WEBMAIL-Xサーバ(webmail-httpd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	ディレクトリサーバ(ldap)
停止 ▼	停止中	起動	停止	Webサーバ(httpd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	ネームサーバ(named)
停止 ▼	停止中	起動	停止	ファイル転送(vsftpd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	時刻調整(ntpd)
起動 ▼	起動中	再起動	停止	リモートシェル(sshd)
起動 ▼	停止中	起動	停止	クラスタプロ(CLUSTERPRO X)
起動 ▼	起動中	再起動	停止	ネットワーク管理エージェント(snmpd)
停止 ▼	停止中	起動	停止	システム監視(mwmonitor)
停止 ▼	停止中	起動	停止	サービス監視(chksvc)
設定				

- 5) 初回アクセス時には、WEBMAIL-X サーバの利用になるためのプロトコル選択（IMAP 接続および POP 接続）を実行するための画面が表示されます。

「POP 接続を使用する」、「IMAP 接続を使用する」のどちらかを選択して [設定] をクリックし利用するプロトコルの選択を必ず行ってください。

設定をしない場合は、「WEBMAIL-X」を使用することができません。また、一度、選択すると、インストール処理が動作し、選択したプロトコルを変更することはできませんので、ご注意ください。

■ WEBMAIL-X 接続先サーバプロトコル

WEBMAIL-Xサーバを開始される前に必ずWEBMAIL-Xの接続プロトコルを設定してください。この設定は、WEBMAIL-Xのご利用開始時のみ必要です。  
WEBMAIL-Xの接続プロトコルを設定した後の切り替えはできません。

■ WEBMAIL-X 接続先メールサーバプロトコル選択

☒ IMAP接続を利用する  
☐ POP接続を利用する

設定

プロトコル選択後の、詳細な設定や WEBMAIL-X の使用方法は、InterSec/MW に添付されているユーザズガイドの「WEBMAIL サーバ機能」を参照してください。

- 6) WEBMAIL-X のサーバ準備が整った後、WEBMAIL-X に接続し管理画面を表示させます。  
WEB ブラウザから WEBMAIL-X に接続する時は、以下の URL を指定してください。

—http://実ホスト名(FQDN形式):10080/manager/ (SSL未使用時)  
—https://実ホスト名(FQDN形式):10443/manager/ (SSL使用時)

- 7) WEBMAIL-X 管理画面ログインの画面が表示されます。管理者アカウントとパスワードを入力してください。

WEBMAIL-X 管理画面の初期管理者アカウントとパスワードは以下の通りです。

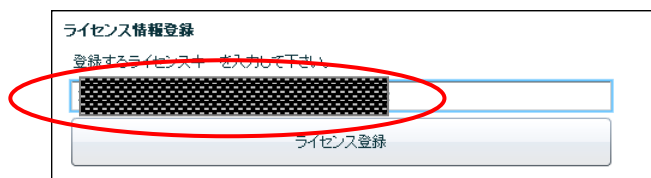
管理者アカウント :	root
パスワード :	root

- 8) WEBMAIL-X のライセンスの登録

WEBMAIL-X 管理画面の左のナビゲーターでの[ライセンス管理]・[ライセンス]をクリックします。操作につきましては、添付の管理者マニュアルを参照してください。

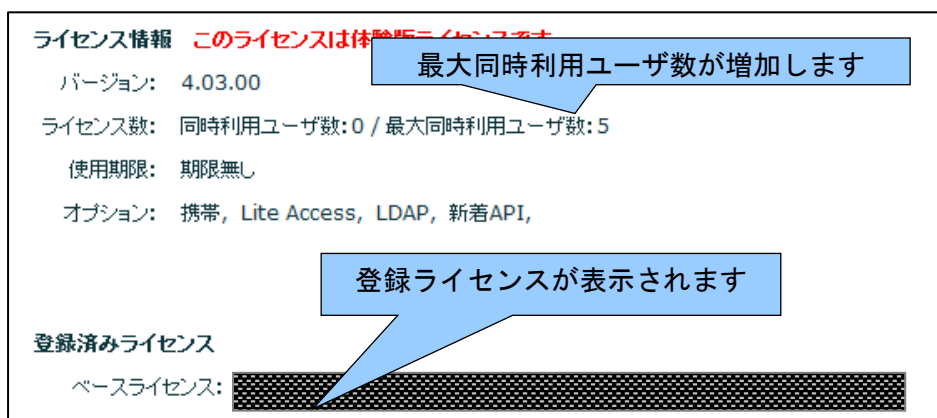


- 9) ライセンス管理画面が表示されますので、あらかじめ申請した「ライセンス発行証」のライセンスキーを入力し「ライセンス登録」ボタンを押下します。  
以下の画像で入力されているライセンスキーは入力例です。



※「ライセンス発行証」は、ライセンス申請シートの申請に基づき発行（返送）されます。

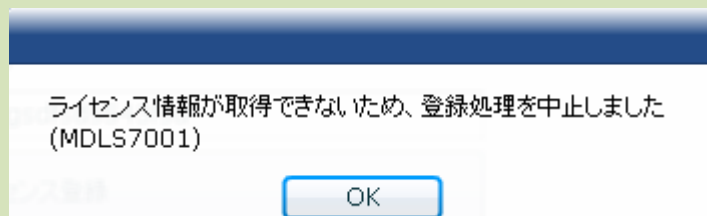
- 10) ライセンス管理画面からライセンス情報が更新されたことを確認してください。  
追加するライセンスが他にもある場合は、続けて登録してください。ユーザ数が加算されます。



InterSec/MW には、出荷時に評価用として WEBMAIL-X の同時利用5ユーザライセンスが付属しています。ライセンスを追加登録した場合は、この5ユーザライセンスは加算されません。



ライセンス登録に失敗した場合は、以下のエラーメッセージが表示されます。  
[OK]ボタンを押して、ライセンス情報を再度確認して、手順 9)からやり直してください。



以上で、WEBMAIL-X のご利用が可能になります。  
お客様の利用形態に応じた設定は「WitchyMail 管理者マニュアル」を参照してください。

## 4章 注意事項

- 1) 各追加ライセンスは、InterSec/MW の1 システム（二重化構成においてもそれぞれを1 システムとみなします）にのみインストール可能です。  
フェイルオーバークラスタ構成の場合は、クラスタを構成する2台の InterSec/MW それぞれについて、InterSec/MW のライセンスを必要数分購入しインストールする必要があります。
- 2) 二重化構成構築キットで二重化構成を構築する場合、以下の機能追加ライセンスの前にフェイルオーバークラスタ構成を完了しておく必要があります。
  - ・ InterSec/MW 全メール保存ライセンス
  - ・ InterSec/MW DNS/DHCP 強化オプション
  - ・ InterSec/MW の WEBMAIL-X 同時接続ライセンス(20,50,100)
- 3) WEBMAIL-X 同時接続ライセンスは、InterSec/MW の1 システム（二重化構成においては、稼動系に追加します。二重化構成を1 システムとみなします）にライセンスを追加可能です。
- 4) InterSec/MW には、出荷時に評価用として WEBMAIL-X の同時利用5ユーザライセンスが付属しています。なお、ライセンスを追加登録した場合は、評価用の5ユーザライセンスは加算されません。
- 5) InterSec/MW のユーザズガイドは、インストールディスクに格納されています。
- 6) WEBMAIL-X 同時接続ライセンスは、InterSec/MW からアンインストールすることはできません。
- 7) 『WitchyMail 管理者マニュアル』は、インストールディスクに格納されています。  
インストールディスク“/nec/doc/witchymail/”を参照ください。